

## 平成23年度研究ステーション研究成果報告書

### 1. 研究ステーション名 Social Informatics (社会情報学) 研究ステーション

代表者名 太田敏澄

### 2. 平成23年度の研究の特筆すべき成果

1) Asia Pacific Telecommunity (APT) の Human Resource Development Programme (HRD) での公募プロジェクトの実施などにより、共同研究を行ってきた外国企業の研究所、外国大学、国内外の政府系研究機関との連携を行ってきた。

また、この共同研究のメンバーのうち2名、Agung Budi Sutiono 氏と Andri Quiantori 氏を博士後期課程に受け入れ、博士の学位を取得させることができた。

また、Agung Budi Sutiono 氏は、特別研究員として研究を推進した。

### 2) 特別研究員による研究の実施

Agung Budi Sutiono 氏は、日本学術振興会外国人特別研究員に採用され、2010年4月より2012年3月31日の間、特別研究員として本学で研究を推進し、インドネシアで特許を出願した。

研究テーマは、「災害救急における脳外傷用ユーザ・インターフェースの開発に関する研究」(課題番号: 22・00008) である。

3) HICSS45 (Hawaii International Conference of Systems Sciences 45, 2012) での公募セッション (Social Media in Social Informatics) を運営するなど、国際学会や国際会議での活動を行い、教育と研究の国際的交流を図ってきた。

4) 社会情報システム学シンポジウムを18回継続的に開催し、18年間に亘り、学内外の大学院生や若手研究者、企業の研究者などの研究発表ないし学術的な討論の場として、オーガナイズド・セッション「社会シミュレーション」を設けるなどして、展開してきた。

また、毎回、社会情報システム学シンポジウム学術講演論文集 (ISSN: 1882-9473) を刊行してきた。

さらに、同学術講演論文集に掲載された論文の抄録は、独立行政法人科学技術振興機構のデータベース JDream II の JSTPlus に収録されている。

### 3. 平成23年度の研究成果の公表実績 (主催した研究会、研究成果の発信状況等)

1) 第18回社会情報システム学シンポジウムの共同主催

2) 第18回社会情報システム学シンポジウム学術講演論文集 (ISSN: 1882-9473)

### 4. 外部資金の獲得状況

(A) 科学研究費補助金

1) H22-H24 ソーシャル・メディアによる組織コミュニケーションの有効性に関する研究

(課題番号：22330111) (基盤研究B)

- 2) H22-H23 災害救急における脳外傷用ユーザ・インターフェースの開発に関する研究  
(課題番号：22・00008) (特別研究員奨励費)

(B) 国際共同研究

- 1) 2011 (H23) Emergency Broadband Access Network for Disaster Relief in Indonesia Phase-2, R&D Center, Telkom Indonesia (APT/HRD 公募プロジェクト)

(C) 国内共同研究

- 1) H23 飲食店用不動産物件における成功要因分析と物件推薦モデルに関する研究, 株式会社 ABC 店舗との共同研究
- 2) H22-H23 店頭アクセスデータを用いた消費者インサイト抽出に関する研究, 株式会社ミディーとの共同研究

5. 今後の研究発展 (外部への発信、外部資金獲得計画を含む)

- 1) 国際会議 WCSS (The 4<sup>th</sup> World Congress on Social Simulation, Taipei, Taiwan, 2012) において, 本研究ステーションの構成員である岡田勇, 山本仁志, 諏訪博彦, 太田敏澄が, 社会シミュレーションに関する Work Shop の開催の準備をしており, 招待講演を行う予定である.
- 2) 国際会議 APCEDM XI (The 11<sup>th</sup> Asia-Pacific Conference on Emergency and Disaster Medicine, Bali, Indonesia, 2012) において, 本研究ステーションの構成員である諏訪博彦, 太田敏澄が, 招待講演を行う予定である.
- 3) 科研基盤研究 (B) 「ソーシャル・メディアによる組織コミュニケーションの有効性に関する研究」 (H22-H24) を獲得しているので, この領域における研究の展開を図る。
- 4) 共同研究「飲食店用不動産物件における成功要因分析と物件推薦モデルに関する研究」につき, 株式会社 ABC 店舗と継続的に行う予定となっている。
- 5) 共同研究「店頭アクセスデータを用いた消費者インサイト抽出に関する研究」につき, 株式会社ミディーと継続的に行う予定となっている。

6. 代表的なピアレビュー論文発表、学会プレナリ、招待講演発表、特許出願、受賞等  
代表的なピアレビュー論文発表

- ファクターモデルによるインターネット株式掲示板の投稿と株式リターンの分析, 諏訪博彦, 梅原英一, 太田敏澄, 情報処理学会論文誌, 53(1), 117-125, 2012.
- Comparison of Mobile TV Acceptance in Indonesia with Japan, Andri Qiantori, Agung Budi Sutiono, Hirohiko Suwa, Toshizumi Ohta, *Journal of Socio-Informatics*, 4(1), 29-40, 2011.

Game of Risk Communications – The case of a Japanese Carmaker, Eiichi Umehara, Toshizumi Ohta, *IEEE Transactions on Systems, Man, and Cybernetics – Part A: Systems and Humans*, 41(4), 651–661, 2011.

組織の IT セキュリティ対策のゲーム理論による分析—セキュリティ推進部門と従業員間の指示と実施のゲーム—, 杉浦昌, 諏訪博彦, 太田敏澄, *情報処理学会論文誌*, 52(6), 2019–2030, 2011.

エージェントベースドシミュレーションによる知識共有コミュニティの報酬制度設計, 小川祐樹, 山本仁志, 岡田勇, 諏訪博彦, 太田敏澄, *電子情報通信学会 D*, J94-D (6), 945–956, 2011.

#### 著書

*Tsunami – A Growing Disaster*, Agung Budi Sutiono, Tri Wahyu Murni, Andri Qiantori, Hirohiko Suwa, and Toshizumi Ohta, InTech, 201–210, 2011.

#### 国際学会プロシーディングス

Using the Factor Model to Analyze Internet BBS Messages and Stock Returns, Hirohiko Suwa, Eiichi Umehara, Toshizumi Ohta, SICE (SICE2011), CD-ROM, 2011.

Analysis of Actual IT Security Incident in an Organization by Using IT Security Implementation Model, Masashi Sugiura, Hirohiko Suwa, Toshizumi Ohta, SICE (SICE2011), CD-ROM, 2011.

#### 招待論文

ソーシャルメディアと社会シミュレーション—知のスパイラルアップ戦略—, 太田敏澄, *学術の動向*, 17(2), 48–49, 2012.

ソーシャル・メディアと社会情報学, 太田敏澄, *日本ソフトウェア科学会第 28 回大会講演論文集*, 6B-4 (6 pages), 2011.

#### 招待講演発表

社会知能情報学でグリーンフロートを見る, 太田敏澄, *グリーンフロート構想研究会*, 2011.

シミュレーションと知: コメンテータ, —知のスパイラルアップ戦略—, 太田敏澄, *日本学会会議社会理論分科会*, 2011.

経営工学のこれからを語ろう, 太田敏澄他, *経営工学関連学会協議会 (FMES: Japan Federation of Managerial Engineering Societies)*, 2011.

Panel Discussion on Social Simulation as Transdisciplinary Research, Toshizumi Ohta et al., *Society of Instrument and Control Engineers (SICE)*, 2011.

ソーシャル・メディアと社会情報学, 太田敏澄, *日本ソフトウェア科学会*, 2011.

ソーシャル・メディアの可能性, 太田敏澄, *電子情報通信学会*, 2011.

#### 特許出願

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別
Neurosurgical Graphic User Interface	Agung Budi Sutiono	Agung Budi Sutiono	No. 019/II/H6.31.21/TU/2011	2011/02/14	Indonesian Patent

#### 受賞

日本社会情報学会 秋山穰賞 神戸 雅一 (電気通信大学) 2011年9月11日受賞

日本社会情報学会 大学院学位論文賞（博士論文・論文賞） 2011年9月11日受賞  
神戸 雅一（電気通信大学）

論文標題「知識経営における知識流通システムに関する研究」

日本社会情報学会 大学院学位論文賞（博士論文・論文奨励賞） 2011年9月11日受賞  
小川 祐樹（電気通信大学）

論文標題「情報共有を基盤とするソーシャルメディアサイトの活性化に関する研究  
—Q&Aサイトの報酬制度設計と Novelty 向上のための推薦手法の提案—」

日本社会情報学会 大学院学位論文賞（博士論文・論文奨励賞） 2011年9月11日受賞  
Andri Qiantori（電気通信大学）

論文標題「Adoption of Information and Communication Technology in Indonesia: Focusing  
on Emergency Medical Communication Systems and Mobile TV Acceptance」

日本社会情報学会 研究発表賞 2011年9月11日受賞  
Andri Qiantori（電気通信大学）

発表表題「Determinants of Behavioral Intention to Use 3G Mobile TV Service」

以上